

+art プロジェクト

船津菜々子（環境人間学部環境人間学科社会デザイン系2回生）

キーワード：アート，デザイン，地域交流

1. 団体概要

「+art プロジェクト」とは総合美術同好会から派生した地域の活性化を目標に活動を行うプロジェクトである。地域イベントにアートに関連し様々な企画を提供し、来場者の経験価値を高め地域の魅力をより多くの人に知ってもらうことを目的としている。

2. 活動紹介

表1 2025年度の活動概略

6月～	しかた広尾東コスモスまつり準備
10月	しかた広尾東コスモスまつり参加
11月	姫路城マラソン2026 横断幕制作
1月	姫路城マラソン2026 横断幕掲出予定

(出所)執筆者作成

2.1 しかた広尾東コスモスまつり

「しかた広尾東コスモスまつり」とは兵庫県加古川市志方町広尾東地区で毎年10月中旬ごろに行われる地域住民主体で行われるイベントである。休耕田を利用したコスモス畑を目当てに町内外から多くの人々が志方広尾東を訪れる。

当団体の志方町コスモスまつりでの活動は昨年度から始まった。昨年度では地域住民の方との協働のなかで参加型・鑑賞型の2種類のアート企画を実施した。参加型の企画では、コスモス畑の道路を活用した「らくがきロード」「トリックアート」の企画を、コスモス畑の中には「額縁型フォトスポット」を設置し、それぞれ参加者の方に写真を撮り楽しんでいただくような取り組みを行った。また、鑑賞型の作品では、会場目印となる立て看板や「額縁型フォトスポット」もコスモス畑のインスタレーション作品として設置した。

昨年度の活動の反省をもとに、今年度の活動では、1. アート作品満足度向上、2. 志方町への宣伝、3. 地域住民との交流機会の向上、4. 地域住民の負担軽減、5. 当団体の知名度上昇、5つの目標を立て企

表2 今年度新たに行ったアート企画

1.会場の横断幕制作
2.会場物販コーナーでの値段カード
3.こしひかりラベルシール

(出所)執筆者作成

画を立案した。

そして、6月に実際に志方町現地を訪れ地域住民の方との話し合いを経て、以下の企画を実施することとなった。

今年度新たに行ったアート企画は3つある(表2)。1つ目が会場の横断幕制作、2つ目が会場物販コーナーでの値段カード、3つ目がまつりで販売しているこしひかりのラベルシールである。また、更に昨年度行った企画(らくがきロード、額縁型フォトスポット)についても新たに案内板を設置・積極的に声掛けを行うなどして参加者の満足度向上につながる工夫を凝らした。

会場の横断幕は、昨年度までの木の立て看板に絵を描くのではなく、持ち運びが容易な横断幕に書くことで志方町だけではなく、学祭など外部のフィールドにも展示することが可能な仕様にした(写真1)。実際に、工学部の学祭(工大祭)にて展示を行った際には来場者の方から多くの反応が寄せられた。

次に会場物販コーナーの値段カードでは、まつりの運営メンバーである地域住民の負担を軽減する目的で制作を行った(写真2)。毎年コスモスまつりでは志方町で採れた野菜などを販売しているのだが、値段カードについて地域住民が毎回その場で



写真1 当日会場に掲示された横断幕



写真2 物販所での値段カード



写真3 こしひかりラベルシール

簡単に作りシンプルなものとなっているため、可愛くデザインしてみたかどうかとの意見のもと新たに作成を行った。値段を記載する欄のほか手書きのイラストを取り入れ、またラミネート加工を施すことにより記載した文字を何度も書き直すことのできる仕様にした。

最後にこしひかりのラベルシールとは、会場で販売している志方産こしひかりのパッケージに当団体がデザインしたラベルシールを施したものである(写真3)。これによりまつり当日に物販コーナーのお手伝いをするなかでのまつりの参加者もとい運営メンバーである地域住民との交流の話題の種が生まれた。

さらにコスモスまつりの当日には提供するアート企画2種(らくがきロードと額縁型フォトスポット)の参加者への対応にあたり、その他志方町の地域住民(運営メンバー含む)や地域外のまつり参加者とも積極的に交流を行った。地域住民の方の紹介で志方町在住の画家の方とアートにまつわる対話を行ったり、同じくコスモスまつりに参加している他の学生団体のメンバーと交流を行ったり、まつりの運営メンバーの方々と食事を共にしさらに交流を深めたりなど、どれも地域の温かみを感じる経

表3. ヒアリング内容

- | |
|-----------------|
| 1. アート作品の準備について |
| 2. まつり開催期間中について |
| 3. アート作品について |

(出所)執筆著作成

験であった。

そして、コスモスまつり開催終了後、11月12日に志方町地域住民かつまつりの運営メンバーの方1名と当団体のメンバー2名とともに今年度の取り組みについて、振り返りのインタビュー調査を行った。調査内容は表3の通りである。

上記の内容を基とした質問項目をまとめ、事前にそれらを先方へお伝えした。当日には質問シートに沿って所々自由に話を深堀しながらインタビューを続けた。

1.アート作品の準備についての質問項目では、昨年度当団体から連携してくださる地域住民の方への連絡頻度が少なく度々混乱を招いてしまっていたという反省から今年度からは連絡手段・頻度について見直しを行い、改善を図ったことについて伺った。それについて十分適切な連絡手段・頻度であったとの評価をいただいた。

2.まつり開催期間中についての質問項目では、当団体が行ったまつり当日の動きに対する評価とコスモスまつりの来場者層についてを伺った。まず、当団体の動きに関してまつり当日の運営にあたる当団体メンバーの数が多いと指摘があった。これについて、来年度では適切な派遣数の見直しをしていきたい。次にコスモスまつりの来場者層について、主な来場者の出身地域や時間ごとの年齢層について把握はできているが正確なデータは取れておらず、また今後正確に分析できる手段があれば嬉しい、との意見をいただいた。よって今後当団体では来場者層に正確にデータ取得が行える企画を実施したいと考える。

3.アート作品について、今年度制作したアート作品についての実際の効果について評価を伺った。結果として、横断幕は細かいディテールまで描きこまれていて見ごたえがあった、値段カードについては良いデザインであったが現場には少し不向きで期待するほどの負担軽減とまではいかなかったこと、そしてこしひかりラベルシールについてはシールの効果であるか不明ではあるがまつり期間内でのこしひかりの販売売上が増加したことがわかった。

総括して、今年度の取り組みでは昨年度よりも多

くのアート企画を実施制作し、志方町との交流が盛んになった。その一方で運営にあたるメンバー数が過剰になっていたことや制作したアート企画がまつりの実態・ニーズに沿えていないこともわかった。来年度はこれらの反省点を改善しより志方町の方々に寄り添った活動を続けていきたい。

2.2 姫路城マラソン 2026 横断幕制作

姫路城マラソン(正式名称:「世界遺産姫路城マラソン」)は2026年2月22日に開催される姫路市及び兵庫陸上競技協会主催のマラソンイベントである。姫路城前の大手前通りをスタートし、姫路城三の丸広場をゴールとしたコースで、2025年は約9000人のランナーが参加する。それに先立ち、当団体ではマラソンに参加するランナーを応援するため、縦1m×横5mの巨大な横断幕を制作し、姫路市に提供した。

当団体の参加は今年で3年目にあたる。今年度は新たに新入生が9名加入したことにより昨年度とはまた新たな視点から、我々は横断幕のスローガンを“Run with passion”と掲げ制作を行った(写真4)。スローガンを日本語以外で表現することは初めての試みであった。構図は水色を基調とした背景に疾走感のある風のモチーフと画面右側には姫路城のシルエットを加えた。そして中央には大胆に情熱に満ちたオレンジ色のスニーカーを配置した構図となっている。

これほど大きな作品を制作する機会はめったになく、容易ではなかった。そのため学年の垣根を超え各々の美術スキルを適材適所で活かすことができる機会となった。そしてこのイベントでは地域イベントにも還元されている。今回制作した横断幕がマラソンを走り己と戦うランナーの目に留まり励みとなることを祈るばかりである。



写真4 姫路城マラソン 2026 制作した横断幕

3. 活動を通して学んだこと

活動を通し、地域とつながるきっかけづくりにアートあるいは個人の得意分野が十分に活かすことができる学んだ。当団体は今年度で発足して2年目となる。まだまだ学生団体としては駆け出しの団体で入部動機は様々だと察する。私は入学当初は地域との連携活動に特別なスキルや動機が必要ではないのだろうかと考えていた。特に、当団体の所属メンバーは必ずしもコミュニケーションに自信があるメンバーではなかった。しかし実際に活動を通し、私たちの団体のできる分野(アート制作)は地域の皆さんに暖かく迎え入れてくださり、今年度も無事活動を終えることができた。

環境人間学部には“地域”に関連した講義が多く、地域に関心を持つ学生も少なくない。その中には“地域と連携した活動がしたいがどのように自分が役にたてるのか”と悩む学生がいるかもしれない。そのような学生がいればこう伝えたい。あなたの趣味や特技が十分地域とつながるきっかけづくりになりうると。特別なスキルはなくとも地域に寄り添った熱意があれば美術であろうとどのような分野でも地域の役に立てる可能性があることが活動を通して学んだことである。

4. 今後の展望

今年度の取り組みでは、しかた広尾東コスモスまつりにおいて、昨年度よりも多くの企画を実施した一方で我々の提供するアート企画の一部が地域の実態的なニーズに寄り添えていないという反省があった。来年度は実施する企画を地域との話し合いをより密にし、精査することで解決していきたい。

そして来年度では志方町のコスモスまつりだけではなく様々な地域イベントに参加していきたい。地域イベントの参加者と共にアートを制作する参加型企画は短い準備期間で高い満足度が臨めた。また地域の方との交流が盛んに行えるというメリットもある。そのため来年度はそのようなアート企画を他の地域でも実施していきたい。